

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	奥野 克己
学歴	昭和52年 3月 明治大学政治経済学部経済学科卒業 昭和59年 3月 東京都立大学大学院社会科学研究所 (修士課程) 社会人類学専攻修了 昭和60年12月 カイロ大学 (エジプト国) 文学部社会学科留学 日本・文部省アジア諸国等派遣留学制度 「昭62.9まで」 平成 4年 3月 東京都立大学大学院社会 東京都立大学大学院社会科学研究所 (博士課程) 社会人類学専攻単位取得満期退学				
学位	昭和59年 3月 文学修士 (東京都立大学)				
専門分野	中東の社会人類学				
専門資格					
所属学会	昭和59年 4月 日本文化人類学会 昭和61年 4月 日本中東学会 平成 5年 6月 日本オリエント学会 平成 6年 4月 日本ナイル・エチオピア学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 卒業研究演習 ・ 、文化人類学演習 ・ 、総合社会学演習 ・ 、総合社会学実習A ・ ・ 、初年次演習、総合社会学入門 ・ 、中東・アフリカ地域研究、中東イスラーム文化論、食とコミュニケーション				
論文指導	論文指導担当[主査] (卒論： 4名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	1	科目名 食とコミュニケーション	科目カテゴリー 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	実施学期 春 ・ 秋	履修者数 約190名
	授業の概要： 食をめぐる題材 (ファースト・フード、グローバル食品、美食など) から、個と社会 (文化) を軸に人びとのかかわり (コミュニケーション) を考察する。				
	教育活動の振り返り： 食の具体的な事例 (画像情報を多く利用) を示して、食の「場」(社会的環境) における「じぶん」のあり方を考察させた。 教育活動の成果： 学科の領域を超えて多くの受講生があり、関心を示してくれた。授業で提出するレスポンスシートや試験の回答からは授業への理解がうかがえた。新たな知見に気づき、解釈というものが理解されたと思う。 今後の課題： 上記「成果」の一方で、シラバスを見ずに時間割の配置から履修したと思える学生には筋違いのレスポンスが多かった。このタイプへの対応は検討の余地がある。				
	2	科目名 総合社会学実習A ・	科目カテゴリー 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	実施学期 春 ・ 秋	履修者数 10名
授業の概要： 海外実習において、フィールドワークを学ぶ。実習のテーマは「都市研究」であり、トルコ、フランス、オランダの市場 (商業施設) 調査を通してフィールドワーク (調査手法、資料収集、資料整理、分析) を習得し、都市の考察、異文化理解をめざした。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

FD 活動 ・ 教育 実績	<p>(総合社会学実習A ・ つづき)</p> <p>教育活動の振り返り： 実践的授業であり、学生が自ら経験することで学ぶために意欲的な作業に終始できた。準備のための国内予備調査、さらに26日間の海外実習によって受講生は自ら学ぶことの難しさ と「現場」の面白さを知りえたと思う。</p> <p>2 教育活動の成果： 準備、実践、まとめ、考察と続く実習は、経験主義的な知見をもたらす。それは異文化理解との考察につながった。</p> <p>今後の課題： 海外ゆえの「旅行感覚」と学習のバランスをどうするか。大きな課題である。</p>
	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</p>
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 特になし。</p>
H26年度 研究課題	<p>イスラームの食規制（ハラール）に関する社会人類学的研究（その10） 中東、ヨーロッパ、東南アジアをめぐる</p>
研究活動の概要 (平成二十六年(2014)年度の)	<p>上記研究課題に基づき、これまでの資料を整理し、成果発表にむけて準備した。また、新たな資料を得るために京都文教大学個人研究費を活用して、インドネシア、マレーシア、タイにおいて調査をおこなった。</p>
主な研究成果等 (平成二十六年(2014)年度の)	(著書)
	(論文)
	(学会報告、学会活動)
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)
	(調査活動) 平成26年 8月 インドネシア、マレーシア、タイ（京都文教大学個人研究費、課題「イスラームの食規制（ハラール）に関する社会人類学的研究（その10） 中東、ヨーロッパ、東南アジアをめぐる」）
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)
	(学内活動) 学生委員会委員、学生相談室運営委員会委員
社会における活動 (平成二十七年(2015)年度の)	<p>(小中高との連携授業の講師) 平成27年 1月 高大連携：ドイツ修学旅行・フィールドワーク教育プログラム、於：私立上宮高等学校（大阪）</p>
平成二十一年(2009)～平成二十五年(2013)年度の主な研究成果等	<p>(著書)</p> <p>1. 「食文化の形成と世界化 エジプトのパン」(第2章1節) 共著、平成23年11月、時潮社、 『世界の食に学ぶ 国際化の比較食文化論』(pp.78-98)</p> <p>2. 「第8章 時代のフロンティアをゆくこと、とは ヌビア人」 共著、平成24年8月、明石書店、 『現代エジプトを知るための60章』(pp.63-70)</p>
	<p>(論文)</p> <p>1. 「世界の農業は今 エジプトの農業とナイル川、そして暮らし」 単著、平成23年10月、大日本農会、農業 1551 (pp.55-60)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

平成二十一 〜二十五 (2009〜2013) 年度の主な 研究成果等	<p>(学会報告、学会活動)</p> <p>1. "To Whom " Nubia" Belongs: Ethnicity and Personal Identity" (発表) 単独、平成21年12月、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 国際シンポジウム "Otherness and Beyond: Dynamism between Group Formation and Identity in Modern Muslim Society"、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 「割礼について」、単著、平成21年9月、日本医事新報社、日本医事新法 4456 (pp.86-87)</p> <p>2. 「文化人類学教育と食のフィールドワーク」(第1章コラム2)、共著、平成23年11月、時潮社、『世界の食に学ぶ 国際化の比較食文化論』(p.52)</p> <p>3. 「コラム9 風情と思索を求めるならば エジプト鉄道紀行」、共著、平成24年8月、明石書店、『現代エジプトを知るための60章』(pp.259-261)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成21年 9月 シンガポール、エジプト、トルコ「ラマダーン(齋戒)の食、禁欲と/あるいは祝祭 食からみるイスラーム」(平成21年度 京都文教大学海外出張助成)</p> <p>平成22年7月・8月 カンボジア、ベトナム(平成22年度 京都文教大学個人研究費「イスラームの食規制に関する社会人類学的研究」)</p> <p>平成22年8月・9月 オランダ、エジプト、スーダン(科学研究費補助金課題番号22401045:後述)</p> <p>平成24年 2月 カンボジア、タイ(平成23年度京都文教大学個人研究費「イスラームの食規制に関する社会人類学的研究」)</p> <p>平成23年8月・9月 トルコ、ギリシャ、エジプト(科学研究費補助金課題番号22401045:後述)</p> <p>平成24年8月・9月 オーストラリア、アルゼンチン(科学研究費補助金課題番号22401045:後述)</p> <p>平成25年8月・9月 エジプト、スーダン、フランス(科学研究費補助金課題番号22401045:後述)</p> <p>平成25年 9月 フランス、チェコ、オーストリア、ドイツ(京都文教大学個人研究費、課題「イスラームの食規制に関する社会人類学的研究(その9) 中東、ヨーロッパ、東南アジアをめぐる」)</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成17年度-平成21年度 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究プログラム「ムスリムの生活世界とその変容 フィールドの視点から」共同研究員</p> <p>平成19年度-平成21年度 農林水産省・先端技術を活用した農林水産研究高度化事業委託事業「ドバイへの北海道物産輸出のための海上輸送技術開発と市場調査」研究分担者</p> <p>平成22年度-平成25年度 国立民族学博物館共同研究「非境界型世界の研究 中東的な人間関係のしくみ」(研究代表者:成蹊大学・文学部・教授 堀内正樹)館外研究員</p> <p>平成22年度-平成25年度 科学研究費補助金(基盤研究B・海外学術)「アラブの人間関係のグローバル展開 先発グローバルイズムの研究」(課題番号22401045)研究代表者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成20年 4月 入試実行委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成21年 4月 就職委員会委員「平23.3まで」 高大連携委員会委員「平24.3まで」 特色GP委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成24年 4月 文化人類学科長「平25.3まで」 大学教学会議委員「平25.3まで」</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等</p>	<p>(学内活動 つづき)</p> <p>平成24年 4月 大学運営委員会委員「平25.3まで」 広報委員会委員「平25.3まで」 自己点検・評価委員会委員「平25.3まで」 自己点検・評価 管理運営専門委員会委員「平25.3まで」 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平25.3まで」 自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平25.3まで」 危機管理委員会委員「平25.3まで」 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員「平25.3まで」 人事委員会「平25.3まで」</p> <p>平成25年 4月 学生委員会委員「現在に至る」</p>
<p>平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)</p> <p>平成22年 8月 平成22年度教員免許状更新講習「校外学習に活かすフィールドワーク」講師、 於：京都文教大学</p> <p>平成23年 8月 平成23年度教員免許状更新講習「校外学習に活かすフィールドワーク」講師、 於：京都文教大学</p> <p>平成24年 8月 平成23年度教員免許状更新講習「校外学習に活かすフィールドワーク」講師、 於：京都文教大学</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成22年度 高大連携：ドイツ修学旅行・フィールドワーク教育プログラム、於：私立上宮高等学校 (大阪)</p> <p>平成23年度 高大連携：ドイツ修学旅行・フィールドワーク教育プログラム、於：私立上宮高等学校 (大阪)</p> <p>平成24年度 高大連携：ドイツ修学旅行・フィールドワーク教育プログラム、於：私立上宮高等学校 (大阪)</p> <p>平成25年度 高大連携：ドイツ修学旅行・フィールドワーク教育プログラム、於：私立上宮高等学校 (大阪)</p> <p>(その他)</p> <p>平成21年5月・7月 いなみ野学園 (兵庫県高齢者生きがい創造協会) 大学講座 「中東イスラムの生活文化1,2」講師</p> <p>平成22年5月・6月 いなみ野学園 (兵庫県高齢者生きがい創造協会) 大学講座 「中東イスラムの生活文化1,2」講師</p>